

噴火活動に伴う降灰調査データの共有に向けた 研究者対応マニュアル(初版)

説明会

(Zoom meeting)

令和4(2022)年 12月 13日

火山機動観測実証研究事業
「降灰チーム」



開始にあたって

1. お名前は、個人参加の場合【氏名@所属】、複数名で1台の端末から参加する場合【所属名】を入力ください。=可能な限りで結構です=
 2. ハウリング防止のため、可能な方は、イヤホンマイクやヘッドセットをご活用ください。
 3. マイクは基本的にミュートにし、発言時にミュートを解除してください。
 4. ご発言がある場合は、「手を挙げる機能」を使って手を挙げてください。司会から指名しますので、指名を受けてからご発言をお願いします。
 5. 発言する際は、ご所属とお名前を言ってから発言をお願いします。また、発言終了の際は、「以上です。」など合図をお願いします。
- ※ なお、今回のMeetingは画面収録させていただきます。質疑応答部を除きプレゼン部分については、後ほどWebページ(準備中)から視聴可能形式で再利用させていただきます。ご了解頂けますよう、宜しくお願いします。
- ※ なお、プレゼンスライドのPDFファイルについても後ほどDLを準備します。

プログラム

- 16:00～ 本会の趣旨説明
- 16:05～ 火山機動観測実証研究事業 (防災科研 藤田英輔)
- 16:20～ 「降灰調査データ共有スキーム」 (産総研 及川輝樹)
- 16:40～ 「研究者対応マニュアル」 (産総研 伊藤順一)
- 17:20～ JVDN (火山観測データ共有システム) (防災科研 上田英樹)
- 17:50～ 今後の予定 (登録方法の説明) 等

趣旨説明

降灰分布： ① 噴火活動の実態を把握・記録する**科学研究に必要な情報**
② 火山泥流の評価等の**防災対応に必要な情報**
→ **様々な組織・研究者が多様な目的により現地調査を実施**

降灰調査の特質： 調査地域は**広域** → **組織的な調査連携が効果的**
科学研究と防災対応の2面性を有す → **学術・社会への貢献**

背景： 国として、降灰調査に関係する機関・者を網羅する基本的考え方がまとめられた
内閣府「**降灰の現地調査の連携・データ共有について**」(略称：**降灰調査データ共有スキーム**)

研究として降灰調査実施している大学・研究機関

[従来] ・噴火イベント毎に、現場で関係者が調整 - 準備しておればもっとスムーズに...
・噴火予知連“総合観測班”として活動 - 迅速にデータを得ることが必要...

[問題意識] 大学・研究機関の降灰調査においても、共有スキームに則り、
他の国の調査機関とも連携できる調査体制をとることは重要ではないか

○目指しているもの

調査データを共有し、連携した調査体制を準備することでの**的確・効率的な調査を行う**。
これにより、**迅速**かつ**高品位の降灰分布データを取得する**。
科学研究データとして活用すると共に、防災対応に必要な情報として利用してもらう
上記の為、基本的なルール・ガイドライン・心構え(?)をまとめる

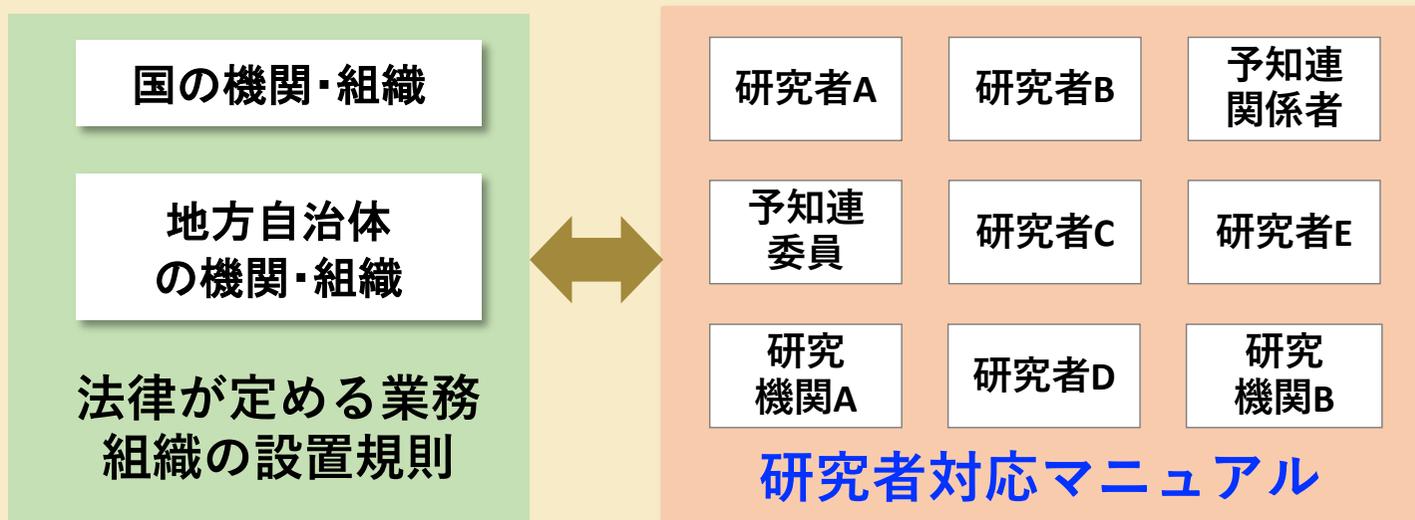
様々な立場で降灰調査に携わる方々

データ共有のプラットフォーム
JVDNシステム
(火山観測データ共有システム)

基本的な考え方

内閣府「降灰の現地調査の連携・データ共有について」R2年5月

降灰調査データ共有スキーム



文科省「**火山機動観測実証研究事業**」
機動観測に必要な体制整備を検討

プログラム

| | | |
|--------|----------------------|-------------|
| 16:05～ | 火山機動観測実証研究事業 | (防災科研 藤田英輔) |
| 16:20～ | 「降灰調査データ共有スキーム」 | (産総研 及川輝樹) |
| 16:40～ | 「研究者対応マニュアル」 | (産総研 伊藤順一) |
| 17:20～ | JVDN (火山観測データ共有システム) | (防災科研 上田英樹) |
| 17:50～ | 今後の予定 (登録方法の説明) 等 | |

※ 各発表の後、3～5分程度質疑応答の時間を設けたいと思います。
また、最後に、全般に対する質疑応答の時間を設けます。